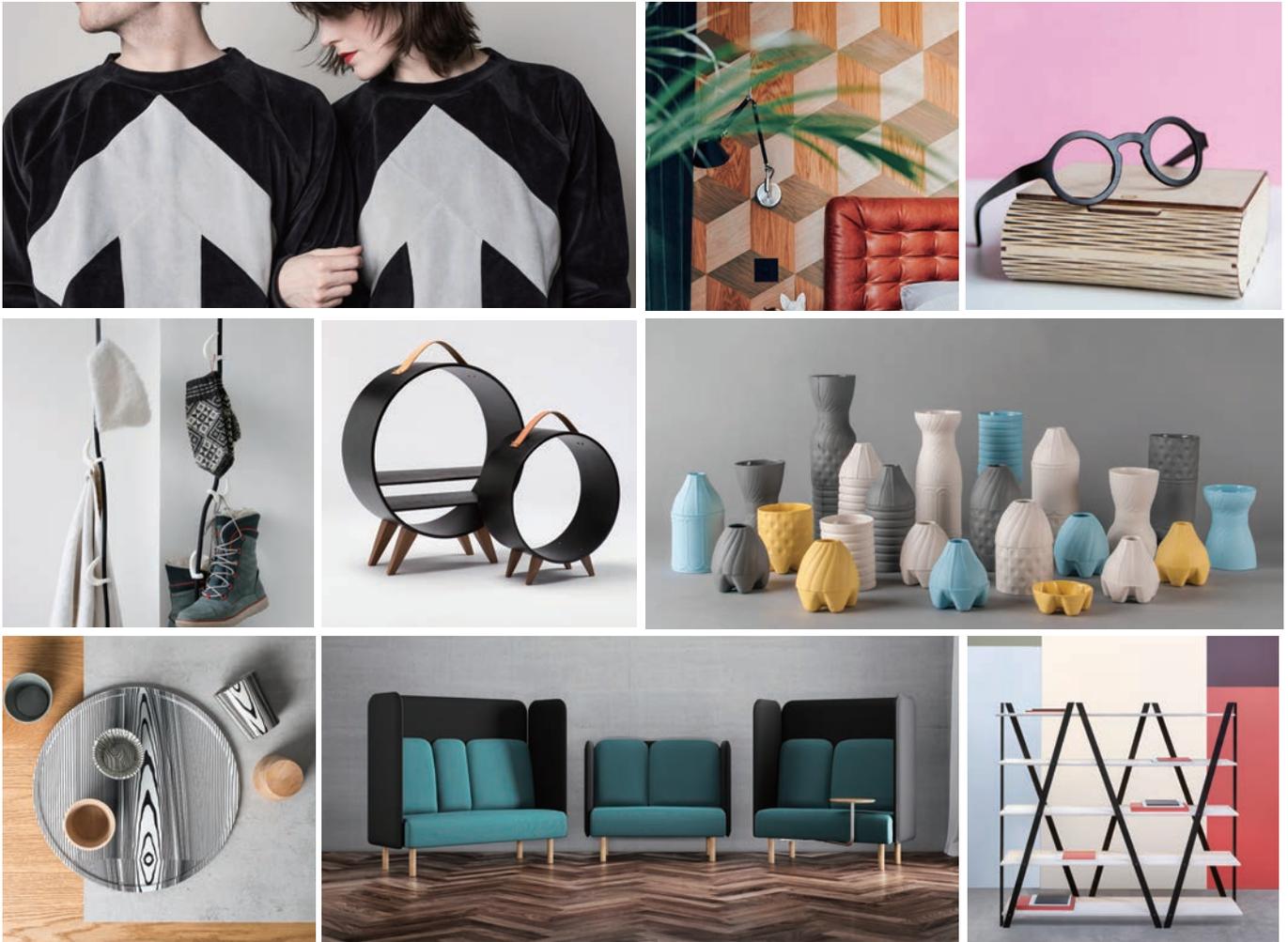


Estonian Design Showcase in Tokyo 2019

ehe* estonia,
born from nature

design
estonia



手付かずの美しい自然と高度なデジタル社会が共存する国、エストニア。
革新的なアイデアと可能性に溢れたエストニアデザイン展が日本初上陸。

美しい自然に囲まれ、人口 136 万人、国土は日本の 9 分の 1 と小さい国ながら、IT 先進国としても注目を集めるエストニア。この秋、エストニア・デザイナーズ協会（EAD）が主体となり、「EHE Estonia born from nature」*と題して、11月20日（水）からはじまる国際見本市「IFFT / インテリア ライフスタイル リビング 2019」を皮切りに、横浜・象の鼻テラスでの「Estonian Lifestyle Festival 2019」など、エストニアのデザインやライフスタイルを紹介する展示会やイベントを開催します。

EAD は、エストニア政府開発財団 (Enterprise Estonia)、エストニア文化省とタッグを組み、現代のエストニアデザインとその世界観を国外に向けて認知を広めるプロジェクトを発足。伝統技術と最新のテクノロジー&ソリューションの組み合わせに挑むプロジェクトを世界に向けて発信しています。本展では、エストニアのデザイナー、メーカー、デザインをリードする企業 30 組以上が参加、若手を含めた、国内外で活躍する気鋭のメンバーを紹介します。ぜひご注目くださいますようお願い申し上げます。

* EHE とは、純粹、誠実、本物といった意味もつエストニア語です。

エストニアを知る8つのポイント

チャレンジ精神から導き出される革新的なアイデアにより、この国には、可能性に溢れた自由な心が次々と芽吹いています。

01. 大自然とデジタルに囲まれた暮らし

国を挙げての徹底したデジタル環境整備により、豊かな自然のなかでも、現代的な都市生活を実現するエストニア。田舎のセカンドハウスでのんびりとした時間を過ごしていても、都会と変わらぬスピードでインターネットにアクセスすることが可能です。また、多数の企業が大自然を生かしたイベントを積極的に開催し、クリエイティブな環境をサポートしています。

02. 「北欧の小国」だからできること。

エストニアの人口は約132万人。国土は日本の9分の1というとても小さな国ですが、それが逆にアドバンテージになることもあります。例えば、大規模なシステム開発のための試験用プラットフォームとなる「テストベッド」としての有用性は抜群。また、大国では実現し難い新しいシステムの導入にも柔軟性に対応できます。

03. 心に根付いた革新性と創造性。

2017年の世界経済フォーラムで、「エストニアは、ヨーロッパにおいて最も起業が盛んな国であると発表されたように、エストニアの人々は革新的で創造性に溢れた精神の持ち主です。国全体でデジタルを活用する「e-Estonia」をゼロから構築。一方で、国民食であるライ麦パンは、人々がそれぞれに隠し味を加えたオリジナルなものにしているなどユニークな独創性を持ち合わせます。

04. データにも示される「デザイン国家」。

業界で活躍するプロのデザイナーの数は、2,500人以上。これは、エストニア国民の525人に1人がデザイナーであるという驚くべき数字です。豊かな伝統と最新のテクノロジー、環境への配慮のバランスを見ながら拡張するエストニアのデザインは、公共サービス開発において特に大きな成果を挙げています。

05. 歴史を重ね、進化する街並み。

美しい中世の街並みを現代へと残す首都タリンの旧市街は、1997年にはユネスコの世界遺産にも登録。この歴史的建造物と共存するように建てられた現代建築こそ、いまエストニアを体現するものです。プレハブ販売会社、Kodasemaが開発した「KODA」シリーズは、エストニアの革新性を象徴するプロダクトとして、世界から注目を集めています。

06 森を守り、森と暮らす

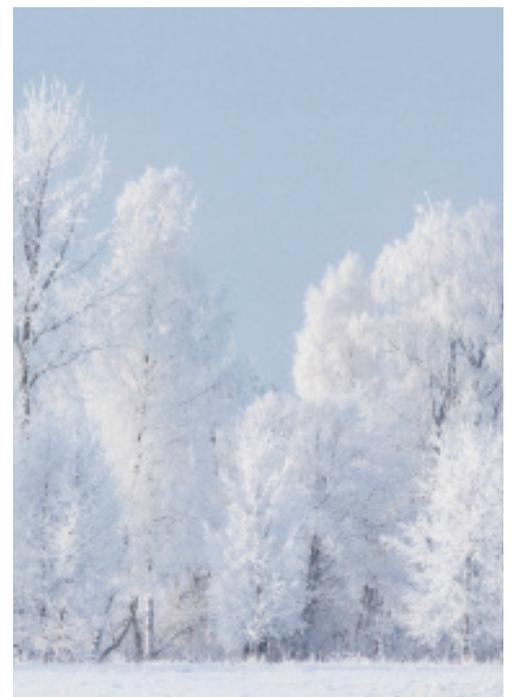
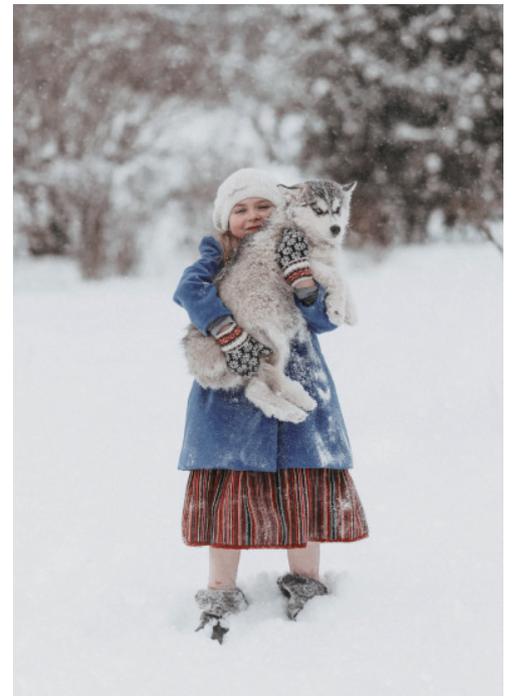
文化を発展させながら、自然を維持するのはとても難しいこと。エストニアは、国土の半分以上を占める森林を守り続けています。豊かな森のなかに入り、ワイルドベリーやキノコを摘み取ることは、今日でも人々の日常の楽しみの一つ。古代エストニアのアニミズムに起源を持つとされる自然との強いつながりは、日本の神道の教えにも通じます。

07. オーガニックへの高い意識。

WHOの調査によると、エストニアは最も空気が美しい国の一つとされており、初めて訪れた人のほとんどが、まずその澄み切った空気と、空の青さに感動を覚えます。国内の森林の40%以上は、オーガニックな食物の採集可能地域。これにより、オーガニック製品やオーガニック食品の開発も積極的に行われています。

08. デジタルが国家を支える「e-Estonia」

90年代初頭にわずかな財源から始まった「e-Estonia」は、現在国内の99%の公共サービスをオンライン上で提供するまでに発展。屋台骨となるX-Road（世界各地でデータを自動的に交換できる世界初のデータ交換プラットフォーム）技術をベースに、さまざまなeソリューションを展開しており、ペーパーレスや環境資源の保全、経費削減にも役立っています。



About

エストニア・デザイナーズ協会 / Estonian Association of Designers (EAD) は、プロダクト、ファッション、テキスタイル、グラフィックデザインなどの分野のデザイナー 140 名以上を集める組織です。エストニア政府開発財団 (Enterprise Estonia)、エストニア文化省とタッグを組み、現代のエストニアデザインとその世界観を国外に向けて認知を広めるプロジェクトを発足。伝統技術と最新のテクノロジー&ソリューションの組み合わせに挑むプロジェクトを世界に向けて発信しています。国外での展示会を通じて文化交流を促進するとともに、急速に発展するデザインの国・エストニアの成果を伝えていくよう努め、その活動を通じ、エストニアのプロダクトデザイナーや企業に国際的な舞台に進出する機会を提供しています。2014 年、EAD は文化交流とエストニアデザインの輸出を目的に、「Size Doesn't Matter (サイズは関係ない)」というスローガンを掲げ、小さなエストニアの国土と多くの優れたデザイナーによる豊富な成果とのコントラストをイメージしたこのスローガンは、ベルギー、オーストリア、スウェーデン、イギリス、フランス、イタリア、アメリカなどでの展示会で発表されました。ここ日本においては、同スローガンに加え、エストニアの純粋でプリミティブな一面を取り入れ、「EHE Estonia born from nature」* と題した展示会を開催。この活動が日本でのビジネスの出会いに役立ち、エストニアが独自のユニークな才能をもつ創造的な国として広く認め

* EHE とは、純粋、誠実、本物といった意味もつエストニア語です。

Event Outline

「IFFT/ インテリア ライフスタイル リビング」

会期： 2019 年 11 月 20 日 (水) - 22 日 (金)

会場： 東京ビックサイト 南 ホール 3 4F-01

入場： 事前登録が必要

URL： iffit-interiorlifestyle-living.jp.messefrankfurt.com/tokyo/ja.html

インテリア・デザインの国際見本市「IFFT/ インテリア ライフスタイル リビング」に出展。エストニアから約 30 組のメーカーや若手デザイナーが揃い、エストニアデザインの今をご紹介します。

「Estonian Lifestyle Festival」

会期： 2019 年 11 月 23 日 (土) 24 日 (日)

会場： 象の鼻テラス (横浜市中区海岸通 1 丁目)

入場： 無料

URL： zounohana.com

横浜・象の鼻テラスでは、2日間に渡りエストニアを体感いただけるイベントを開催。デザインやライフスタイルアイテムの販売の他、エストニアのフード、民俗音楽、SDGs のドキュメンタリームービー「OUT OF FASHION」上映、ワークショップなどが楽しめます。

「東欧・バルト三国 やさしい冬時間」

会期： 2019 年 11 月 20 日 (水) ~ 11 月 25 日 (月) 6 日間

会場： 阪急うめだ本店 9 階 催場 (大阪府大阪市北区角田町 8-7)

入場： 無料

URL： hankyu-dept.co.jp

阪急うめだ本店で開催するバルト三国のフェアでは、ファッションやジュエリーを中心としたエストニアのブランドが参加します。

主催： Estonian Association of Designers (エストニアデザイナーズ協会)

協力： 横浜市

Enterprise Estonia (エストニア政府開発財団)

エストニア文化庁

このプロジェクトの一部は欧州地域開発基金 (European Regional Development fund) 「クリエイティブ産業の発展」よりエストニア政府開発財団 (Enterprise Estonia) によって運営されています。

Participants

総勢 39 の出展ブランド & デザイナーから一部をご紹介します。



TOKU (トク)

デザイナーの Piibe Tomp (ピーベ・トンプ) が 2014 年に立ち上げたブランド。TOKU のスリッパは、人間工学に基づいて設計したインソールを採用。温度調節機能のある天然フェルトが、優しく足を包み込んでくれる。快適性とサスティナビリティを重要視しつつ、職人技をベースにした美しいデザインを提供。2018 年には権威ある Estonian Yong Designer of the Year をはじめ、複数のデザイン賞を受賞。



Softrend (ソフトレンド)

1997 年創業のエストニアの布張り家具の専門メーカー。吸音性ソファシリーズ「The August」は、開放感のあるオフィスなど、大きな間取りのワークスペースに向けて開発された。ミーティングのほかにも、せわしないワークスペースから一歩離れて、自由で独立したプライベート空間を作り出すこと可能。座るだけで心穏やかにしてくれる、シック&シンプルなスタイル。機能性も兼ね備え、幅広いインテリアに対応。



John Blund (ジョン・ブランド)

人の心と体を癒し、リラックスした雰囲気を生み出す環境に優しい製品を提案したい。そんな思いから、2 名のセラピストが創立したブランド。「ウェイトブランケット」は、不安や睡眠障害を軽減するために設計。近年の医学研究においても、加圧が快適で深い睡眠へと導く効果をもたらすことが証明されている。使うだけで心身ともにリラックスし、より早く、深い睡眠へと導くアイテム。



Groveneer (グローヴェネール)

高品質な天然オークを用いた壁面装飾材のブランド。豊かな自然に囲まれたような印象の木目調インテリアを実現するために、好みのパターンが簡単にできる天然木の壁紙。豊富なパリエーションを揃え、個人邸からオフィスから商業空間まで、幅広く対応。冷暖房などで気温の上下が激しい室内の環境変化に対応するために、特別な機械処理を施し、耐久性を強化。



Reet Aus (レートアウス)

Reet Aus は、大学で博士号を取得後、ファッションデザイナー兼環境活動家として活動。「REET AUS COLLECTION®」と「THE UPSHIRT®」2 つのコレクションを立ち上げる。Aus は、ファッション業界におけるアップサイクルシステムの先駆者であり、その知識を他ブランドや生産工場へと広めるために Stockholm Environmental Institute (スウェーデン) と共同開発 UPMADE® という認定制度も開発。



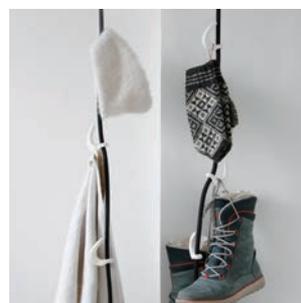
Talken Design (タルケン・デザイン)

Jana Jõgi (ヤナ・ヨギ) は、エストニア芸術大学を卒業後、パーティ合板製のプロダクトをデザイン・製作する「Talken Design (タルケン・デザイン)」を創立。自身のリビングルームに、丸みのある棚を置きたいと探し回ったものの、理想的なものを見つけれなかったことをきっかけに自ら製作。時間をかけて試作を完成へと導き、さらに細部をブラッシュアップすることで初コレクション「PIGGY」が誕生。



Radis (ラディス)

家庭やオフィスに、ナチュラルでコンパクトな暮らしをモットーに、2010 年設立した家具デザイン工房「Radis」。パーティ合板とオイルワックスを素材に、環境と人体に優しい多機能シェルフやサイドボード、テーブル、ベッドなどを製造。環境への配慮を大切にし、生産のプロセスで生じる廃棄物を極力抑えたものづくりを実施。コンパクトな暮らしのスタイルで、控えめながらも記憶や思い出に残るデザインを提案する。



TAMMA DESIGN (タンマ・デザイン)

小規模ながら革新的なスタイルを貫くデザインスタジオ。靴や鍵から、眼鏡、ローブ、本、食器、電球といった日常生活に関わるあらゆるオブジェクトに目を配り、新しい美しさの可能性、ストーリーのあるものづくりを目指す。デザインや生産における全工程に厳しいこだわりを持ち、形やテクスチャー、色選びには遊び心を持って自由に組み合わせたり、混ぜ合わせたりする実験的なプロセスでデザインする。



AEGAON (アエガオン)

デザイナー Janno Roodi (ヤンノ・ローディ) が 2012 年に創設したエストニア初の時計メーカー。タイムレスなデザインと卓越した職人技による品質が高い評価を受ける。急速に移り変わるトレンドやファッション産業が環境へ及ぼす影響に対抗できるものづくりにも挑戦。AEGAON は、「ゆっくりと、慌てずに」という意味のエストニア語「aegaon」に由来するもの。エストニア大統領から賛辞、Creditinfo Estonia からは、最高ランクの AA 評価を受ける。

Participants

総勢 39 の出展ブランド & デザイナーから一部をご紹介します。



Tarmo Luisk (タルモ・ルイスク)

エストニアで最も活躍するインダストリアルデザイナーの一人として知られ、これまでに数多くの作品を発表、国内で確固たる地位を築いている。Luisk のデザインは、ウィットに富んだアイデアとシンプルなアプローチに定評があり、同時に確かな耐久性を考慮した緻密な設計も重要視している。エストニアにおける権威あるデザインアワード Bruno を複数回受賞している。



Karl Annus (カルル・アンヌス)

Karl Annus デザインする木製フレーム眼鏡「Framed by Karl」は、優れた職人技に裏打ちされたシンプルでフォルムと素材にこだわり、タイムレスな美しさを追求。いつまでも変わらずに愛される持続可能なものづくりを志向し、貴重な天然木を素材にセレクト。敢えて着色やコーティングなどを施さず、素材が本来持つ自然の美しさをそのまま製品で表現している。2016 年エストニアのデザイン賞 Bruno を受賞。Estonian Design House* より発表。



Maria Sidorenko (マリア・シドレンコ)

Maria Sidorenko は、基本的な使い勝手の良さに、詩的な表現を重ね合わせていくデザイナー。テーブルウェアをはじめとした日用品に独自の解釈を加え、デザインの可能性を追求している。Estonian Design House* より発表。



WOH AND MARGOT VAADERPASS

(ウォフ・マルゴト・ワーデルパッス)

正統な北欧デザインに、機能的でサステイナブルな感覚を取り入れた家具やホームアクセサリを提案するデザインカンパニー。プロダクトの一つひとつの使いやすさによって、空間全体の居心地は大きく変化する。伝統工芸の技を守りながら、既存の枠組みに捉われない斬新なアプローチで、ミニマルで温もりのあるデザインに仕上げている。すべてエストニア国内製造。



JALG (ヤルグ)

写真家であり木工職人の Veiko Kallas (ヴェイコ・カラス) とインダストリアルデザイナーの Argo Männiste (アルゴ・マニステ) の 2 人が 2016 年に設立。活動分野が異なる 2 人のビジョンと経験が交わり、相乗効果を生み出すことで、レトロモダンなテレビスタンドが誕生。JALG のプロダクトは稀少な木材を用い、すべてハンドメイドで作られている。



Growert (グロウェルト)

ミニマルなデザインながら、グリーンで彩ると壁がぱっと華やかな印象になる縦型プランター「Growert」。自然と高度な技術を融合し、壁面の植栽を可能にしたことで、居住空間やオフィスだけでなく、バルコニーやパティオ、商業施設から公共施設に至るまで、ありとあらゆるエリアに対応。目を楽しみインテリアを実現する小型のプラントウォールは、アパートやオフィスなど、グリーンを楽しむ十分なスペースがない環境に最適。



Kelpman Textile (ケルプマンテキスタイル)

テキスタイルデザイナー、Mare Kelpman (マレ・ケルプマン) によってデザインされたブランド。現代の技術と融合し、伝統的な職人技術を復活させることを目指している。オーガニック素材を使用したショールなどのファッションアイテムやブランケットなどが中心のコレクションです。

*横浜「Estonian Lifestyle Festival」、阪急うめだのイベントに出店



Emma Leppermann (エマ・レップエルマン)

Emma Leppermann は 2009 年テキスタイルアーティスト Merle Suurkask (メルレ・スールカスク) と Liisa Kallam (リーサ・カールラム) によって設立。エストニアの企業と協力し、魅力的でユニークな素材を開発し、帽子、スカーフ、バッグなどを少量ずつ丁寧に生産。実際の出来事や自然、人々とのコミュニケーションからインスパイアされ、デザインされている。

*横浜「Estonian Lifestyle Festival」、阪急うめだのイベントに出店



DeMoog (デモォグ)

バルト海の厳しい自然に囲まれた海辺の街に誕生した、小さなデザインハウス。現代的な北欧デザインと伝統的な職人技を融合させ、厳選した自然素材を用いたレザーのアクセサリをハンドメイドで製作。美しいレザー製ボウタイやミニマルなデザインのベルトなど、ニュースタイル・ジェントルマンを演出する、魅力的なコレクションが揃う。

*Estonia Design House は、インテリアアクセサリからファッションまで、エストニアのデザインプロダクトを扱うショップ。エストニアデザイナーズ協会 (EAD) が運営し、エストニアデザインの発信とともにデザイナーにビジネスチャンスを提供。デザイナーと起業家がともに製品開発を行っていく場でもある。